

# P R P (PFC-FD™) 療法 (血小板由来因子濃縮物 - フリーズドライ化)

※保険適応外の治療です。そのため費用は、全額自己負担になります。

PFC-FD™ は、血小板の力を活用する治療法であり、血小板由来成長因子濃縮液を凍結乾燥保存したものの商品名・サービス名となります。「PFC-FD」は、セルソース株式会社 (CellSource CO., Ltd.) が Platelet-Derived Factor Concentrate Freeze Dry という造語の頭文字から名付けました。

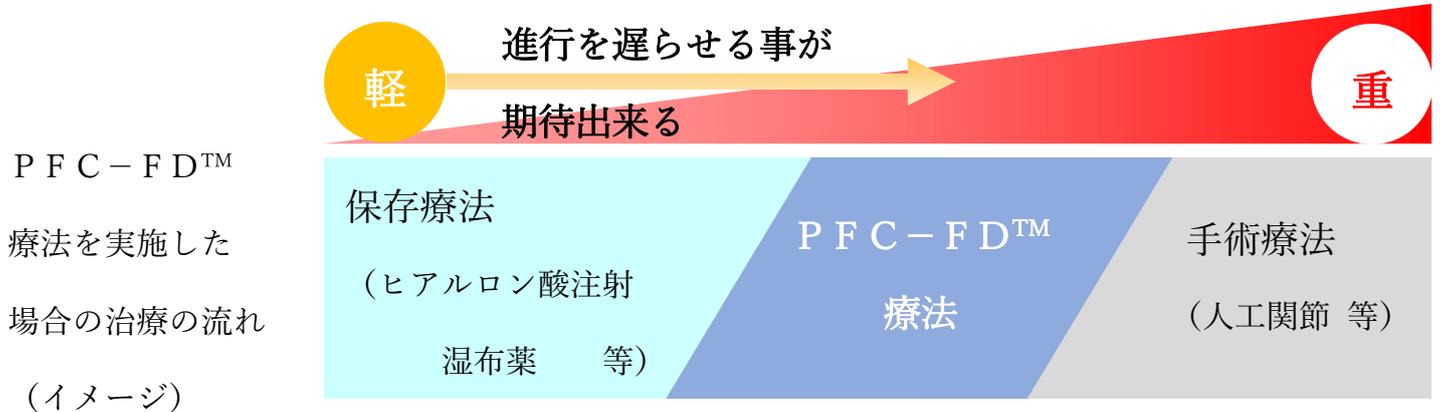
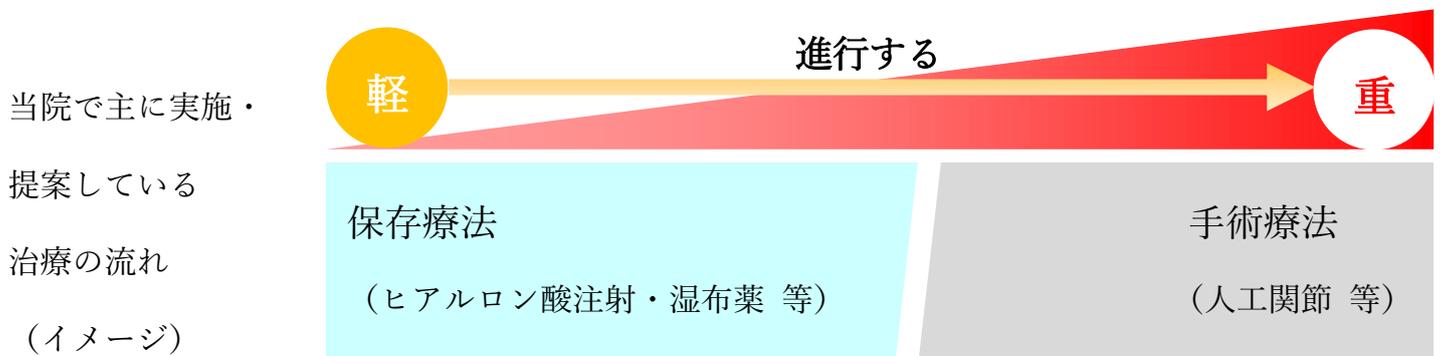
当院では、膝関節の痛みの軽減に効果が期待出来る PFC-FD™ 療法を行っております。

PFC-FD™ 療法は以下のような方に提案しています。

- 1) 膝の痛みが長引いている方
- 2) 膝に長年注射を続けているが良くならないという方
- 3) 出来る限り膝関節の手術は避けたいという方



膝の痛みでお悩みの方にとって、治療の選択肢の一つとして提案しています。



進行を遅らせる事が期待出来る

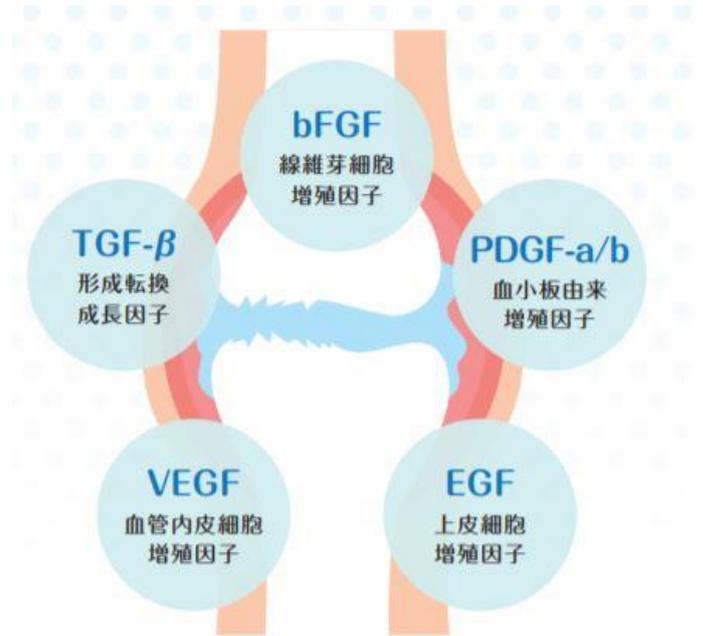
## PFC-FD™療法とPRP療法の違い

似たような名前でPRP療法というのを聞いた事がある方もいらっしゃると思います。

PRP療法は血液より血小板を多く含んだ成分を取り出し患部へ注射する治療法です。

PFC-FD™療法は、そのPRPからさらに濃縮した成長因子だけを抽出するものです。

そのため、採取した同じ量の血液を比較すると、含まれる成長因子の量はPFC-FD™の方が約2倍となっています。



青戸克, ほか. 整形・災害外科 2014; 57 (8): 965-970.より作図

## 当院でのPFC-FD™療法の流れ

### 1) 問診・診察

まずは外来を受診して頂きます。

医師が患者様のお困りの症状や部位を診察いたします。



### 2) 保存療法実施

ヒアルロン酸注射やリハビリ等実施し、経過観察します。

### 3) PFC-FD™療法の提案

上記保存療法を実施しても症状改善が乏しい場合は、PFC-FD™療法を提案・説明します。

※実施期間中は当院での保険診療は一旦休止・中断することになります。 目安：1か月

#### 4) 採血

患者様から血液約 50ml を採血します。

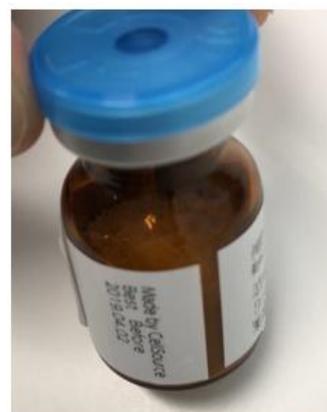
再生医療センターへと送り、検査・加工を行います。



※血液検査の結果、感染症の陽性反応が

出た患者様には PFC-FD™ 療法を行うことが

出来ませんのでご注意ください。



#### 5) 投与

採血してから約 3 週間たった後、

フリーズドライ化された PFC-FD™ を

関節へ注射いたします。

投与後、歩いて帰宅しても構いません。



#### 6) 診察

投与約 1 週間後に診察をいたします。痛みの程度 等を確認します。

※この診察日の翌日から、当院での保険診療を受ける事が出来ます。

### 注意事項

- 1) 自己修復力に依存する療法となりますので、上手く修復が進まない場合もございます。
- 2) 採血部や注射部に一時的な痛みや皮下出血が起こる場合があります。
- 3) 感染症を起こしている際には治療が出来ません。

## 治療後の注意点

痛みを感じている間に、安静にし過ぎてしまうと、治療部位が固くなり長期的な痛みにつながる場合があります。可能な限り継続的にリハビリテーションを行いきましょう。

当日の入浴は避けていただき、注入部は清潔に保ってください。

注入後数日間、血流の良くなる行為（長時間の入浴、サウナ、運動、飲酒）を行うことで、痛みが強くなる場合があります。この症状は、治療効果に差はありませんが、あまりに痛みがひどい際はご相談ください。

## 費用について

PFC-FD™ 注射（血液検査料金も含む）	170,000円（税込）
-----------------------	--------------

※血液検査結果で注射が出来ない場合、検査料として15,000円（税込）が必要です。

## よくあるご質問

Q. 高齢者でも受けられる治療でしょうか？

A. PFC-FD™ 療法は手術を行わない治療ですので、高齢の患者様でも受けていただけます。

しかし、患部の状態によっては手術が適する場合もございます。

医師とよく相談し決めていきましょう。

Q. 膝関節以外の部位でも治療を受ける事は出来ますか？

A. 申し訳ありません。当院では安全面や有効性 等を考慮して、現在のところ膝関節のみに実施しています。

Q. 何か副作用はありますか？

A. 現在重い副作用はございません。自己由来の血液・成長因子を投与する治療なので拒絶反応等が起きにくいですが。しかし、注射（採血部・注入部）箇所に一時的な痛みや腫れ等は起こる可能性があり、同注射箇所に感染や出血・アレルギー反応が生じる可能性もあります。

※PFC-FD™ は、セルソース株式会社（CellSource CO., Ltd.）の提供する商標です。